

水巻町勤労体験支援事業について

[事例報告 2]

(体験の概要)

体験者	B君 16歳 (男性)
体験場所	東洋緑地(株)
体験期間	H15年10月3日～H15年12月26日
体験内容	造園に関する仕事全般

(経過報告)

水巻町勤労体験支援事業に対し、児童少年相談センターを通して、B君16歳の申し込みがある。保護者と共に面接を行い、本人の希望により「東洋緑地(株)」にて勤労体験をすることとなる。事業所である東洋緑地(株)社長と体験内容について、打ち合わせをし、計画書を作成する。10月3日より体験開始、7時30分～12時まで、または7時30分～17時までの時間帯で実施。仕事の流れがあるので、曜日指定はできにくい。

体験初日、朝7時30分までに事務所に出勤、弁当もきちんと持参してきた。その日は、個人の自宅の庭木の剪定後、木・枝を拾い集める仕事であったが、一生懸命体を動かしていた様子である。終わったあとの感想は、『疲れた』との返事であった。

その二日後、児童少年相談センターに来たとき、『仕事は楽しい・みんなよくしてくれる・頑張る』という話をしたとの事。センターの指導員が『B君とてもいい顔しているよ。頑張っているね』と声をかけると、照れながらもすごく、うれしそうな表情が印象的でした。という話を聞く。

体験開始二週間後、事業所社長との面談。B君の近状を尋ねると、『きちんと仕事の時間を守り、遅刻することなく段々と、道具などの積み込みも積極的に手伝い、作業員の人たちとの関わりも自分から中に入っている。』ということであった。最初は、よく一人である場面を見かけたが、近頃は、みんなと楽しく話しをしている姿を目にするとの事であった。

体験開始三週間後、本人との面接で近況を聞く。体験が始まってからは、朝6時には自分で起きて、自転車に乗っていつている。11時には就寝、全く夜遊びをしなくなった。自分にもやれるという自信がついたし、監督さんや作業員の人たちもみんなやさしく接してくれて、「就職したい」という将来のことまで、考えられるようになった。という内容であった。生活面においても、規則正しい生活習慣が身につき、仕事に対する意欲もわき将来に対しての目標ができて、よい方向へ進んでいると感じる。

10月の終わり、体験日確認のため、事業所社長と面談しB君の様子を聞く。『B君が体験に来た当所は、一人で立っていることが多かったが、言葉をかけながらこういう時はこうしたら等、今どういう事をするよいか等の話をすると、次の日はそれをするという具合に一回一回言っあげると、日に日に成長しているし、今まで遅刻しないでくる分と

でもいいと思います。』との事であった。

体験も一ヶ月を過ぎる頃B君と面接を行う。今の状況を尋ねると『とても楽しい・最高です』という言葉どおり、生き生きとして、表情も明るくなり色も黒くなり、たくましさが増してきた。

そのような中、体験期間もちょうど半ばにさしかかる頃、久しぶりに夜遊びをしたらしく、次の日の朝起きられなかったそうです。母親が、『「眠たいでもきちんといかないといけないよ」というと、「自分は職員ではないから」と言って、その日の体験を休みました。』という連絡をいただきました。とにかく三ヶ月間の体験期間を有効に活用し、その中で、いろんな体験（楽しい事・つらい事等）やちょっとした失敗など繰り返しながら、あわてることなく、着実に、じっくりと進めていきたいと感じる出来事もありました。それ以来、このような事はなくしっかり体験に励んでいるころ、事業所社長との話の中で、来年の4月より夜間高校へ行くようなことを現場で話していたという。そのような気持ちになれたことはいいことであるし大きな変化でもある。

（まとめ）

12月26日で体験が無事終了する。最後にB君の『勤労体験活動を終えて』の感想より
僕は東洋緑地で3ヶ月間体験をしてみて、とても東洋緑地はいいところでした。仕事も一つだけじゃなくて木を切ったり草をかったり、松をきれいにしたり、肥料をまいたりして、一つだけの仕事じゃなかったのも、とても楽しかったです。これを、きっかけに造園の仕事がしたいです。

この体験期間でB君が大きく変わったことは、大変うれしいことである。家庭での生活習慣が変わり、働くことを通して人とのふれあい、協調性、楽しさ、厳しさなども体験しB君が今後の生活を送るうえで、この勤労体験で得たことは大きいと感じる。できることであれば、せつかく身についたいい習慣がこわれることなく、何かの仕事でいかせればと感じる。

1ヵ月後、保護者との久しぶりの面接にて本人がどうしても造園の仕事がしたいというので、知人の紹介で面接に行くという話を聞く。結果、木屋瀬の造園業で働くことになり本人もとても喜んでいるという報告を受ける。

水巻町勤労体験支援事業について

[事例報告 3]

(体験の概要)

体験者 Cさん 16歳 (女性)
体験場所 神社そば 村の下
体験期間 H15年10月18日～H15年12月18日
H16年 2月 1日～H16年 2月29日
体験内容 掃除・注文とり・配膳・洗い物・レジ など
体験時間

10月18日～10月31日 週4回 火・木・土・日 11時～15時

11月 1日～ 2月29日 週5回 火・木・金・土・日 11時～15時

(経過報告)

水巻町勤労体験支援事業に対し、児童少年相談センターを通してCさん16歳の申し込みがある。保護者と共に面接を行い、体験場所を「神社そば村の下」と決める。事業所である村の下店長と体験内容について打ち合わせをし、計画書を作成する。一週当たりの体験回数を週4回（火・木・土・日）とし、体験時間を11時～15時までの時間帯とする。

10月18日が体験開始日で、土曜日でもあり大変忙しく「初めてのことで、声が出ていなかったし、とても緊張した。でも、店内で働いている人たちが、やさしく接してくれてやりやすかったし、続けられそう。」という感想であった。

体験3日目には、仕事の流れも理解でき「あれして、これして」といわれなくても、動けるようになる。と言っていた。本人もとても一生懸命頑張っている姿が伺える。

また、次の日は、お客さんに笑顔で話せるようになり、「お客さんとのコミュニケーションが大切なことだと気づいた。」と言っている。職場のなかにおいても楽しく話せるようになるなど、楽しい雰囲気の中で体験が進むなか、11月より体験日を一日増やしたいという申し出があり、火・木・金・土・日と週5回の体験日となる。

体験も三週間を過ぎる頃、体験の様子を見学に行く。笑顔で接客し、手なれた様子で、手際よく動いていた。時々笑い声も聞こえ雰囲気がとてもよく、Cさんにあっていると感じる。働いている人たちもやさしそうで、よく助けてもらっているようだ。初めて逢った時より明るくなり、よく話をしてくれるようになる。

順調に体験が進むなか、体験場所の都合により、一時中断するが再度2月1日より残り1ヶ月間の体験ができるようになる。休んでいた間に店内が改装され、勝手が違うらしく戸惑う場面もあったようで慣れるまで少し時間がかかりそうである。と言っていたが3日目ぐらいから慣れたとの事であった。

2月29日で無事体験が終了するが引き続き、火・水・木・土・日の午前10時30分

から 15 時までの時間帯で雇用していただける事となる。Cさんも保護者もとても喜んで
いる。

最後にCさんの「勤労体験活動を終えて」の感想より

3ヶ月間振り返ると早く感じます。

接客の仕方・・・お客さんとの会話の仕方・・・

いろいろ学びました。これからも村の下で頑張っていきます。

とあるようにCさんにとっては、村の下でいろいろな人と交流することが、社会性の
向上につながっていったと感じるとともに、Cさんの笑顔が多く見られるようになった。
今後も、この勤労体験で身につけたことを、生かして行ってほしいと感じる。

水巻町勤労体験支援事業報告書

平成 17 年 5 月 9 日

水巻町健康福祉課民生児童係

水巻町勤労体験支援事業について

[事例報告 4]

(体験の概容)

- ・体験者 D君 15歳 (男性)
- ・体験場所 ふるさと 四季の味 樋口店
- ・体験期間 H16年4月1日～H16年6月30日
- ・体験内容 4月 1日～ 接客・お茶だし・配膳・あとかたづけ
4月14日～ 開店前の準備・店内・外の掃除・配膳
5月26日～ 調理場が追加
- ・体験時間
 - 4月 1日～4月13日 週3回 火・水・金 11時30分～14時
 - 4月14日～5月16日 週3回 火・水・金 10時30分～13時
 - 5月17日～6月11日 週4回 月・火・水・金 10時30分～14時
 - 6月12日～6月30日 週6回 月・火・水・金・土・日 10時30分～14時

(経過報告)

水巻町勤労体験支援事業に対し、児童・少年相談センターを通してD君15歳の申し込みがある。保護者とともに面接を行い、本人の希望により「ふるさと四季の味 樋口店」に決める。事業所である、ふるさと店長と、体験内容について打ち合わせをし、体験計画書を作成する。週3回(火・水・金)11時30分から14時までの時間帯で、4月1日より体験開始となる。

初日はきちんと、11時30分には出向き、「いらっしゃいませ」という声と笑顔がでていた様子である。

体験開始1週間後、児童・少年相談センターにてD君と面接。当初より明るくなり、よく話をしてくれるようになる。ずっと立っていることに慣れていないため「きつい」と言う。しかし、お客さんに「いらっしゃいませ」と言う言葉が言えるようになり、お茶をだす時も、座ってだせる等、教えたことはきちんと実践している。とても、素直であるという店長の話聞く。家庭での生活習慣も、夜ふかしをしなくなり、自分で目覚まし時計をかけ、起きていっているとの事である。

ところが、体験開始10日後、体験日にもかかわらず、店を無断欠勤する。D君は、休む事を指導員に連絡したが、その場になつかたためうまく伝わらず、事業所店長からの「今日は体験にこなかった。」という連絡で対応にあたる。児童・少年相談センターの職員とともに、家庭訪問を行う。

D君の心境を聞くと、「接客というのが、自分には向かないのでやめたい。」という。いろいろ会話をしながら、他の場所でもいいが、どこの場所で体験しても、頑張る気持ち、物事をやりとうそうとする気持ちを持つことは、大切なことなので、「やめる」のではなく、「体験内容を変更してみてもどうか」というと、「それだったら、続けてみる」ということで、接客の時間を短くして、開店前の諸準備や、店内・外の掃除・配膳などを体験に加えるということ、D君の了解を得る。事業所店長に状況を話すとともに、体験内容の変更について相談すると、快く了解してもらった。体験時間も10時30分～13時までとなる。又、欠勤したことのお詫びの電話はきちんとかけていた。

体験も1ヶ月を迎える頃、体験場所を訪れ、店長にD君の体験の様子を伺う。「仕事にも慣れ、言った事はきちんとするが、女性ばかりの職場でもあるし、D君には向かないのではないか。」といわれるが、「本人の気持ちを大事にしていきたい」ということで、よく話をしてみることにになり、本人の気持ち尋ねると、「いやではない。3ヶ月間頑張る」という。体験内容については、「もっと仕事を増やしてほしい」という意向なので、翌日、事業所店長と話をする。又、体験中のD君の様子などから、食生活に問題がある事を指摘される。そのようの中、体験日が1日増え、月・火・水・金の週4日となり、体験時間も10時30分から14時までとなる。

体験も2ヶ月を終え、残り1ヶ月となった頃、体験に対して積極性がでてきて、自分から店長の方へ、「調理場のことを教えて下さい」と、お願いし、卵焼きの作り方や包丁の持ち方など、基本から教えてもらっている。又、店長が、「料理を作るうえで、そのものの素材の味を知らなければ、料理は作れない。」という話をすると、偏食していたD君が、野菜でも何でも少しでも、食べるようになったという連絡がある。

体験も余すところ3週間になった頃、土曜・日曜と体験日に加えたいという本人の申し出がある。店長にその事を伝え、了解を得、週6日の体験日となる。D君は、料理を作ることに、興味があつたらしく、体験内容に調理場が加わることで、楽しくなり、料理のことを勉強したいという意欲が湧いてきたという。面接を重ねるごとに、D君の明るさ・積極性・意欲がでてきたと強く感じる。

(まとめ)

6月30日をもって無事体験を終了する。最後にD君の「勤労体験活動を終えて」の感想より

「最初は、楽しくなかったけど、あとで調理場に行って、料理をならって、楽しくなりました。」

この体験期間で、D君が少しずつ変わったことは、大変嬉しいことである。最初はなかなかなじみず、体力もなく、意欲も感じられなかったが、日を追うごとに明るくなり、体験場所にも慣れ、いろいろな人達と交流することが、社会性の向上につながっていったと感じる。さらに、料理のことに興味を持つとともに、偏食がなくなり、「食」

に対しても欲がでてきて、いろんな物が食べられるようになったことも変化のひとつである。これからは、この体験を生かして、前向きに将来に目を向け、自信をもって、今後の社会生活を送ってもらいたい。

水巻町勤労体験支援事業について

[事例報告 5]

(体験の概容)

- ・体験者 E君 16歳 (男性)
- ・体験場所 東洋緑地 株式会社
- ・体験期間 H16年6月7日～H16年9月6日
- ・体験内容 造園に関する仕事全般
- ・体験時間 7時30分から12時まで 又は 7時30分から17時まで。

一週あたりの体験日は、仕事の流れがあるので指定しにくい。

(経過報告)

広報「みずまき」で、勤労体験支援事業を知った保護者より、事業内容の問い合わせを受け、4月の終わりに面接を行う。5月の連休あけに、体験希望者E君とあう。事業内容説明のため、数回の面接を重ねながら、体験場所を「東洋緑地(株)」に決める。前例の4件と違い、E君は、児童少年相談センターに通っていなかったため、卒業校である水巻南中学校の先生と連携をとりながら、進めることとなる。

事業所社長と打ち合わせをし、体験計画書を作成する。7時30分から12時まで。又は、7時30分から17時までの時間帯で実施する。仕事の流れがあるので、曜日指定は出来にくい。

6月7日より体験が始まる。体験場所の人間関係がとてもよく「仕事はきついけど楽しい」という。

体験開始2週間後の面接で、家庭においては、以前のように夜遊びに行かなくなったし、保護者も気をつけて出さなくなったという。生活習慣が少しずつではあるが、良い方向へ改善されつつある。

体験一ヶ月が過ぎた面接において、E君の働く意欲があまり感じられないという印象をもつ。しかし、事業所社長と話をするなかで、「仕事が終わったあとの後かたづけもきちんとするし、働くことがきらいではなく、身体を動かすことが好きであるという事がわかる。また、言葉使いも敬語を使うところはきちんと使っている。作業員のおじちゃん・おばちゃんともすぐ仲良くなり、自分からいろんなことを話して楽しそうである。」という。E君なりに一生懸命頑張っている様子である。

体験も二ヶ月が過ぎ、今までの自分を振り返り、変わったことなどを尋ねると、「生活面においての変化はあまりないが、仕事は楽しいしきつくても休まず

に行き、朝もきちんと時間までには行っている。」という。働く姿勢はできていると感じるが、体験前に話した約束事を守るということに関して、少し欠けているようである。例えば、体験記録簿を毎日書くということに関して、始めのほうだけで、あとは記入していなかった。「書く」ことや「記録をとる」ことに意識が薄いようであり、苦手のようにもある。面接時、こういうことも体験のひとつである事を言い続けてきたが、守れなかったことが残念である。

(まとめ)

9月6日で無事体験が終了する。その後の面接において、「引き続きアルバイトで使ってもらえることになった。」という話を聞く。

一生懸命働いたことが認められ、実を結んだことは大変嬉しいことである。

最後にE君の「勤労体験活動を終えての感想」より

- ・ 朝おきるのが大変。
- ・ 弁当を作るのが大変。
- ・ 草刈機やトリマーを使うのが楽しかった。

E君が造園の仕事に対して興味をもち、楽しく体験できた様子が伺える。又、家庭での基本的な生活習慣も少しではあるが、建て直ちに努力する姿勢があったと感じる。

今後も、この体験で得たことを、これからの生活の中に生かして行ってほしい。

水巻町勤労体験支援事業について

[事例報告 6]

(体験の概容)

- ・体験者 F君 15歳 (男性)
- ・体験場所 ふるさと 四季の味 樋口店
- ・体験期間 H16年9月21日～H16年12月20日
- ・体験内容 開店前の諸準備・掃除・接客・配膳など
- ・体験時間 週6日(月・火・水・金・土・日) 10時30分～14時

(経過報告)

水巻町勤労体験支援事業に対し、児童少年相談センターを通して、F君15歳の申し込みがある。本人と面接を行い、希望により体験場所を、「ふるさと四季の味 樋口店」に決める。ふるさと店長と体験内容について、十分打ち合わせをし、体験計画書を作成する。週6日(月・火・水・金・土・日) 10時30分から14時までの時間帯で9月21日より体験開始となる。

初日は、時間よりも早くきて礼儀正しくあいさつができていた。多少緊張気味であったが、体験に取り組む姿勢が一生懸命で、頑張りたいという気持ちが、態度に表れていた。

その後、一週間が過ぎた面接において、体験は思っていたより楽しいという。初めての接客も抵抗なく続けられるとの事である。ただ、面接の時、体験記録簿を一週間分まとめて書いていたので、注意をし、一日の体験終了後必ず記入する事を約束する。また、店長との話の中で、『F君は、飲み込みが早く、よく気がつき、よく動く。手があいた時でも「何かすることないですか？」と、尋ねてくる。働くことに前向きで、よく身体を動かす。』と言って褒めて頂く。

体験一ヶ月が過ぎた面接において、F君に「体験する前と変わったと思うところはるか」と尋ねると、「性格が少し明るくなった。以前より、人の事・人の気持ちを考えるようになった。やる気がでてきて、これからの事を考えるようになった。」など、良い方向へ進んでいると感じる。仕事の流れも解り「あれして・これして」と言われなくても、状況を見て動けるようになり、「何かする事ないですか」と聞かなくてもよくなるなど、順調に進行中である。

ところが、体験も残すところ、あと三週間にさしかかった頃、『突然、本人から事業所に「やめます」という電話がかかってきた。』と、店長から電話がはいる。その一週間前ぐらいから、遅刻・早退に加え、体験中の欠伸などが目立ちはじめたので、「何か変だな どうしたのだろう」という状況だったようだ。すぐ、児童少年相談センターに連絡をとり、本人が立ち寄っていないか確認す

るが、ここ数日は来ていないとの事であった。また、自宅にも連絡するが、いなかったのので「明日、面接日なので必ずセンターに来てほしい」ことを、家族に伝える。

翌日、本人と話し、どういう気持ちだったのか聞いてみると、F君は体験に、「少し物足りなさを感じはじめた」という。以前の面接で「仕事の流れもわかり、いわれなくても動けるようになった。」と言っていたが、『仕事』として考えた時「もっと身体を動かしたい」「いろんな事がしたい」という気持ちが強くなったという。いろいろな事を考えているうちに電話をかけてしまった。という事であった。

今回の事は、F君が体験を通して、働くことを前向きに考えられるようになり、成長した結果だと感じる。しかし、「物足りないから、もっと何かしたいから、やめる。」というのは、必ずしもいい結論ではない事。最後まで頑張ってもらいたい事など、話し合った結果、残り三週間体験を続ける事となる。

事業所のほうにも「明日からまたよろしくお願ひします」という電話をかけることを伝える。

翌日、事業所店長より連絡がはいり、電話はなかったが、直接店のほうへ来て、すぐには中に入れず、外でたたずんでいる所を店の人が見つけて、中にいられてもらったとの事であった。

(まとめ)

その後は、順調に体験を続け、12月20日で無事三ヶ月の体験を終了する。

最後に、F君の「勤労体験活動を終えて」の感想より

「意外とこういうところの仕事も楽しくて、

いろいろ教えてもらい楽しかった。」

三ヶ月間には、いろいろあったが、F君の中ではすべてが経験として、これからの社会生活を送るうえで、勉強になった事だと感じる。

又、F君は、この勤労体験を通して、自分に自信を持てるようになり、定時制高校進学を考えられるまでになる。